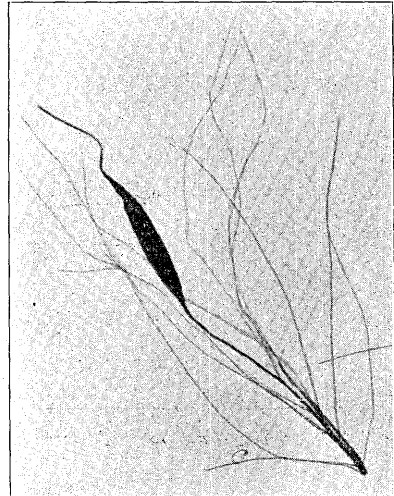


ト言フヨウナ名稱ガ與ヘラレタカト言フニ、ソレハ前記ノ *M. malabathrica* ノ果實ヲ食スルトソノ果汁ノタメニ口ガ黒クナルノデ此様ナ名稱ガ出タノデアル。ソコデ *Melastoma malabathrica* LINNÉ ハ漿果ヲ持つ物ダト結論スル事が出來ル。從ツテ *Melastoma* 屬ハ漿果ヲ持つ屬ト考ヘル事が出來ル。此ノ結論ヨリ推論スルト、のぼたんハ *Melastoma* = 屬スル物デハナイノデハナイカト想像スル事が出來ル。

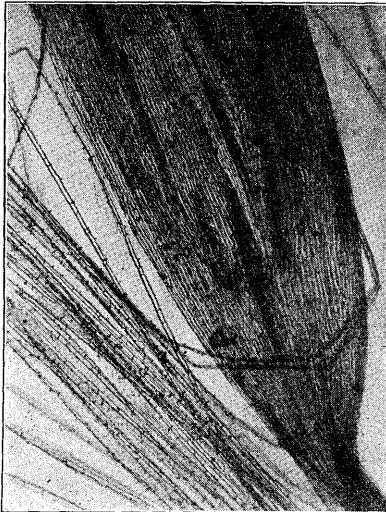
(正宗 嚴 敬)

○ほくちノ材料

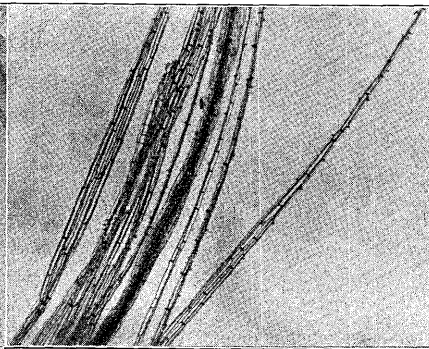
年末ニ東京湯島天神境内ノ露店デ燧石ヲ一式購入シタ序ニ引火用ノ綿狀物、即チほくち(引火奴)ノ材料ヲ檢シテ見タ。言海ニハ茅花、斑枝花、いちぶノ莖ヲ炭末トナシタルモノナドガ擧ゲテアル。知人ノ秋田縣人某氏ハ、彼氏ノ郷土ニ於テハ多孔菌科ノきのこノ炭末ノミヲ用フト言ハレタ。本草綱目啓蒙卷之九白茅ノ條下ニハ「…白キ絮アリ此絮ヲ取ツテ焔燭ヲ加ヘ煮テ赤ク染テホクチトス又燒酒ニテ煮製スルモアリ」トアル。依テ余ハ自分ノ手ニ入ツタ材料ヲ一見シタルトコロ黒色綿狀塊ノ物質デ、蒼褐色ノ小體ガ混在スル様ニ見エタガ更ニ之ヲ檢鏡シタル所、該綿様物ハ第1圖ノ如キモノ(第2圖ハ其



第1圖 ほくち顯微鏡で見テ其正體ヲ表ス



第2圖 第1圖ノ部分ノ擴大、右側ノ大キナモノハ果實ノ側面ト冠毛



第3圖 がまノ花ノ一部 中央ノ太イモノハ果柄、他ノ細絲狀ノモノハ冠毛

一部擴大セルモノ) ノミノ團塊デアツタ。之ヲ藥學士野々村進氏ニ囑シテ、化學的ニ檢シテ貰ツタラ焔石ト炭素ノ存在ヲ認ムトノコトデアツタ。然シテ余ハ材料ヲ鏡下ニ於テがま

ノ穂ヲ斷定シタ。ソレ故前述セル小體ハ實ニ果實ナノデアル。サレバ余ノ入手セルほくちハ
がまノ穂ヲ熔石ノ溶液ニテ煮之ニ炭素ヲ加ヘタモノデアルト言フ結論ニ達シタ。ソコデ自
カラ之ト同様ナモノヲ製セシニ全く同一物ヲ得タ。此場合余ハ熔石ノ2%溶液ヲ用ヒタ。尙
軟キ炭末ヲ之ニ混ズルト熔石ヨリ飛來スル火花ハ先ヅ炭末ニ點火シ遂ニ熔石ニヨリ團塊ニ
傳ハルニ便デアル。マタほくちニ點火シタ時生ズル小爆音ハ、之ニ混在スル果實ノ破裂スル
音デアルコトガ判ツタ。後ニ中井博士ニオ話シタラ、同氏ハ幼時ヨリほくちハがまヨリ製ス
ルヲ知レリト申サレタ。

然シ前出諸説ノ如クちがや其他フ植物ノ冠毛ヤ種子毛ヤ、マタ輕質ノ炭末其モノガ熔石ヲ
配合シテほくち又ハソレト同一ノ目的ニ使用サレタ事ハ想像ニ難クナイ。尙近時喫煙用ヲ
イターノ一種ニ裝置シアル橙黃色ノ紐ハ柄カニ綿製品デアル。然シ之ハほくちト異リ、甚ダ
キナクサイ點ガ缺點デアル。終リニ熔石トカ、ほくちトカ云フト、イカニモ古イモノハ様ダ
ガ、年末ニハ東京銀座ニテ十ヶ所以上之ヲ賣ル露店ガアツタシ、神社ヲ緣日ニハ之ヲ賣ル商
人ヲ認メルノデ、用途ハ兎ニ角尙現行ノ火器ノ一種デアル。機寸ノ代用ニスル事ハ現行法上
ドンナモノカ検討ヲ要スルガ、若シ使ハレ、バ今尙便利ヲ感ズル祖先ノ遺シタ重寶ナ道具デ
アルガ若シ明治四十四年三月一日内務省令 第二號銃法火藥類取締法施行細則第二條第一項
ノ「硝酸鹽ヲ主トスル有煙火藥」ニ該當スルトセバ無暗ニハ使ハレナイコトニナル。然シ
同法第二條三ノ一ニヨリ學校ナドデ實驗ニ供スル場合ニハ除外サレルデアラウ。

(久内 清孝)

○みぎはひごたいニ就テ

筆者ガ先年中井猛之進教授監輯「東亞植物圖説」第一卷第四輯中ニ紹介シタ滿洲産ノひめ
ひごたい屬ノ一種みぎはひごたい (*Saussurea peipingensis* CHEN) ノ學名ニ就テ最近新タ
ナ知識ヲ得タノデ茲ニ寸記スル。コノ植物ハ1934年陳封懷氏ニ依ツテ上記ノ名ヲ與ヘラレ
タモノデアルガ其レヨリ以前 VANIOT 及ビ LÉVEILLÉ 兩氏ガ朝鮮嶺南浦産ノ同一植物ニ
Saussurea chinmampoensis VANIOT & LÉVEILLÉ ト云フ名ヲ命ジテキル事ヲ知ツタ。兩
氏ガ此名ヲ發表シタノハ1909年ノ事デアリ中井博士ハやなぎひごたい (1922) ノ名ヲ付ケ
ラレテキル。併シ惜シイ哉此和名ハ先行ノ異種同名やなぎひごたい (*Saussurea amurensis*
TURCZANINOW var. *stenophylla* NAKAI) (1918) ト牴觸スル爲筆者ノ與ヘタみぎはひごた
いガ生キル。本植物ノ分布狀態ハ極メテ興味深ク、產地トシテハ今ノ所北京、北戴河、伊胡
塔、嶺南浦ノ四地點ガ知ラレテキルノミデアル。共ニ濕地 (恐ラクスベテあるかり性ノ) デ
アツテ滿鮮ノ海岸地帯ト蒙古方面ノあるかり地帯トノ植物系ガ如何ニ密接ナ關係ヲ保ツテ
キルカヲ示ス好箇ノ一例ト謂フベキデアル。

Saussurea chinmampoensis VANIOT & LÉVEILLÉ in Bull. Acad. Intern. Geogr.
Bot. (1909) p. 145—*Saussurea peipingensis* CHEN in Bull. Fan Mem. Inst. Biol. V. p.
87 (1934); KITAGAWA in NAKAI, Icon. Pl. Asiae Orient. I. p. 79 t. 36 (1936); HANDEL-
MAZZETTI in Notizblatt Bot. Gart. Mus. Berlin-Dahlem. XIII. p. 648 (1937).